

# ガチャ販売企業の株価に基づく曖昧性回避の検証\*

網澤綾乃

指導教員 草川孝夫

## 研究背景

ソーシャルゲームにおけるガチャ課金は、射幸性の高さや過度な課金を招く可能性から、消費者保護の観点で社会問題として議論されてきた。ガチャは排出確率が不透明であり、消費者は不十分な情報のもとで意思決定を行ってきた。行動経済学では、人々が確率や結果が不明確な状況を避ける「曖昧性回避」の行動をとることが知られている。この観点から、確率表示の導入は、消費者が直面する曖昧性を低減する制度的変更であり、課金行動や企業の収益に影響を及ぼす可能性がある。

## 研究目的

曖昧性回避の観点からは、確率表示によって不確実性が低減され、課金行動が促進される可能性が考えられる。一方で、企業が長年確率を非表示としてきた事実は、非表示の方が企業利益にとって有利であった可能性も示唆する。このように、確率表示が企業にとって正の影響をもたらすのか、負の影響をもたらすのかについては、実証的な検証は十分に蓄積されていない。そこで本研究は、確率表示の導入を企業レベルの制度変更として捉え、その株価反応を分析することで、確率公開が企業の利益に与える影響を明らかにすることを目的とする。

## 研究方法

分析にあたっては、確率を公開した企業の公開日における前日比の株価上昇率と、その他の企業（非公開企業又はすでに確率を公開している企業）の前日比の株価上昇率を比較する。

## 分析結果

t検定の結果、有意な差は見られなかった。

## 考察・結論

確率表示の導入は、射幸性の低下や当選確率の低さの認識を通じて課金意欲を抑制する可能性がある一方で、企業への不信感を軽減し、納得感のある課金行動を促進する可能性もある。そのため、確率表示が消費者行動や企業利益に与える影響を分析したが、明確な効果は観察されなかった。

---

\* 本論文の執筆にあたり、高知工科大学経済・マネジメント学群の草川孝夫先生には、研究テーマの設定から論文完成に至るまで、終始懇切丁寧な指導を賜った。ここに記して、深く感謝の意を表す。併せて、大学生生活を通じて支えてくれた家族および友人に対し、感謝の意を表したい。